

国立病院機構熊本医療センター

No.176



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096)353-6501(代)
FAX (096)325-2519

平成23年度 第2回開放型病院連絡会開催が迫りました

平成23年度第2回(通算32回)の国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が、来る2月25日(土)午後6時30分より、当センター地域医療研修センターホールで開催されることになりました。症例の呈示、病院からの連絡、総合討議に続きまして、今回は厚生労働省 大臣官房 技術総括審議官 矢島鉄也先生の「医療イノベーションの動向について」

と題しての特別講演を企画させて頂きました。多数のご参加を頂きますようお願い申し上げます。看護部門、事務部門、MSWの方などのご参加も歓迎いたします。

当日、会場にて新規登録医の受付もできます。ご希望の先生は会場受付でお申し付け下さい。

(副院長 河野 文夫)

第32回 開放型病院連絡会のご案内

日時：平成24年2月25日(土) 午後6時30分～8時00分
場所：地域医療研修センターホール(当院2F)

— 内 容 —

1. 症例呈示 「消化管早期癌における内視鏡的粘膜下剥離術(ESD)の現状
消化器内科医師 尾上 公浩
2. 病院からの連絡事項 「インターネットによる地域連携システムについて」—りんどうネットの紹介—
地域医療連携室長 片渕 茂
3. 総合討論
4. 特別講演 「医療イノベーションの動向について」

厚生労働省 大臣官房 技術統括審議官 矢島 鉄也 先生

【参加申込み先】国立病院機構熊本医療センター管理課 電話 096-353-6501 内線2311(高倉・横尾)

平成23年度

第2回 熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会報告

平成23年度第2回熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会が12月19日(月)午後7時より、当センター会議室で開催されました。熊本市歯科医師会からは清村正弥会長、藤波好文副会長、渡辺猛士専務理事、宮本格尚医療管理理事、高橋禎医療管理委員長が出席いただき、当院より池井院長、河野副院長、片渕地域連携室長、高橋救命救急部長、中島歯科口腔外科医長が出席しました。

池井院長、清村会長からあいさつの後、議事に入りました。まず、当院の歯科紹介率の議題では中島医長から、紹介率が少しずつ増えていることが報告されました。

次いで、当院の歯科救急医療についての議題では、高橋部長より今年はずでに11月までで153件と過去最高であった昨年と同等の件数であることが示されました。

続いて毎年好評で参加者の多い救急蘇生講習会について、来年度も11月8日(木)に開催されることと、さらに歯科関係の講演として医歯セミナー3回、

熊本摂食・嚥下リハビリテーションセミナーが6回開催されることが報告されました。

最後に河野副院長から、平成23年度第2回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が2月25日(土)午後6時30分から、当院地域医療研修センターにて開催されることが案内されました。

(歯科口腔外科医長 中島 健)



連絡協議会の様子



「医の徳を求めて」

花園内科クリニック

院長 木村 義博

地域医療を通じて地域の皆様健康をお守りする
という信念のもとH22年10月1日より地元、花園5丁
目に「花園内科クリニック」を開院致しました。30
数年循環器内科の専門医としてのキャリアを生かし、
日々様々な病気の患者様方を診察し、開院以来一年
数か月が過ぎました。その中で、重症で専門治療が
必要であるとき、あるいは、救急を要するとき、国
立病院機構熊本医療センターの医療スタッフの皆様
が快く迅速に患者様を受け入れて下さり、ともに連
携を図り、患者様に高度な医療を受けていただくこ

とができますことを、大変心強く、感謝いたしてお
ります。

さて、写真には「医徳千金 鵬程万里」と漢詩の
書かれた書が写っておりますが、その書は、今から
20年前、熊本市市民病院勤務医時代、熊本市の友好都
市である桂林市を訪問した際、当時中国で有名な桂
林在住の書の大家の伍純道【ごじゅんどう】教授に
お会いする機会に恵まれ、先生より医師としてどう
あるべきかと私へのメッセージを書にして贈呈して
いただきました。それから、私はこの漢詩を生涯の
座右の銘とし、院長室に掲げ日々の医療に取り組ん
でいる毎日であります。高齢少子化の到来で医療を
取り巻く環境は益々厳
しくなっていますが、
ホームドクターとして
の役目は適格な診断と
治療により患者様が健
康で幸せな生活をおく
れるように努めること
であります。そして、
地域医療に貢献するこ
とが私の医の徳である
と確信しております。



第17回 国立病院機構熊本医療センター医学学会が開催されました

去る1月14日に第17回国立病院機構熊本医療セン
ター医学学会が開催されました。今年、症例報告や、
臨床研究報告など39題の演題が発表されました。最
初に気付いたのは、研修医がすっかり落ち着いて発
表を行っていたことです。1年目の研修医もすでに
他の学会や研究会で発表した経験から、しっかり前
を向いて、自分の言葉で自信を持って発表していま
した。質問に対しても、臆することなく堂々と答え
ているのが印象的でした。また、コメディカルから
も新しい機器の紹介や機器の測定精度の発表、摂食
嚥下チームなどの多職種チームの活動報告など優れ
た発表が多かったと思います。看護部も無作為比較
試験の臨床研究など目を見張るものがありました。



医学学会の様子

午後からは、竜山内科リハビリテーション病院の
清原英雄先生、しまだ内科クリニックの島田達也
先生の座長のもと、活発な討議をしていただきました。
また、院外からは田尻クリニックの深田修司先生が
無痛性甲状腺炎後に発症したバセドウ病の症例につ
いて発表されました。二つの病態をととても分かり易
く解説していただきました。本学会は病院内の部門
相互のコミュニケーション促進と病診連携にとても
役立つ有意義な学会だと思えます。

(臨床研究部長 芳賀 克夫)



清原英雄先生と清田師長



島田達也先生と川内師長

病棟紹介〈11〉

7南病棟

7南病棟は、精神科であり閉鎖病棟で3室の保護室を有しています。入院患者さまのほとんどが急性期精神疾患及び身体合併症の方で、全診療科の患者さまを受け入れている病棟です。

急性期精神疾患としては急性薬物中毒・縊頸などの自殺未遂・アルコール離脱せん妄・心因反応などが多いです。身体合併症では整形外科の骨折の手術、外科の悪性腫瘍の手術目的での入院が増加しています。多くの患者さまにおいて身体拘束を要するため、拘束による合併症や、回復の遅延をきたさないように、各患者さまの拘束の必要性について検討し、離床の促進・ADLの拡大に努めています。

(7南病棟看護部長 森田 恵)



7南病棟スタッフ



毎週水曜日に行われる連携室との合同カンファレンス



強化ガラスで覆われたスタッフステーション



デイルーム

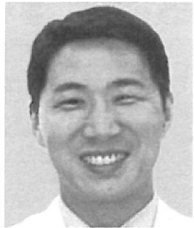


橋本医師との面談の様子（面談室にて）



熊本城が一望できる病室からの眺め

2012
診療科紹介 (45)
救命救急・集中治療部



救命救急部長・集中治療部長
救命救急センター長

高橋 毅

救命救急、集中治療

日本救急医学会・専門医・指導医・評議員
日本集中治療医学会・専門医・評議員・会則検討委員
日本内科学会・認定医・総合内科専門医・指導医
日本循環器学会・専門医
日本糖尿病学会・専門医・指導医・評議員
日本蘇生学会・指導医・評議員
日本高気圧環境医学会・専門医
日本臨床救急医学会・評議員・編集委員
日本精神科救急学会・評議員
日本航空医療学会・評議員
日本動脈硬化学会・評議員
日本医療マネジメント学会・評議員
熊本大学大学院医学教育部客員准教授
国際医療福祉大学大学院特任教授
熊本大学医学部臨床教授
インフェクションコントロールドクター
日本救急医学会認定ICLSディレクター
統括DMAT隊員
医学博士

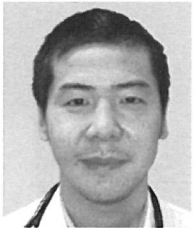


救命救急部医長・集中治療室長

瀧 賢一郎

集中治療、麻酔

日本麻酔学会・専門医・指導医
日本救急医学会
日本集中治療医学会
日本蘇生学会



救命救急部医長

原田 正公

救命救急、集中治療

日本救急医学会・専門医
日本内科学会・認定医
日本高気圧環境医学会・専門医
日本蘇生学会・評議員
日本集中治療医学会・日本臨床救急医学会
日本精神科救急学会・日本脳卒中学会
日本循環器学会・日本糖尿病学会
日本内科学会・日本透析医学会
日本超音波医学会・DMAT (NBC) 隊員
日本救急医学会認定ICLSディレクター
フライトドクター



医師

橋本 章子

救命救急、代謝内分泌

日本医師会・認定産業医
日本救急医学会・日本集中治療医学会
日本臨床救急医学会・日本精神科救急学会
日本脳卒中学会・日本蘇生学会
日本内科学会・日本循環器学会
日本糖尿病学会・日本内科学会
日本透析医学会・医学博士



医師

橋本 聡

救命救急、精神神経

精神保健指定医、日本精神神経学会・専門医
日本救急医学会・日本集中治療医学会
日本臨床救急医学会・日本精神科救急学会
日本脳卒中学会・日本蘇生学会
日本内科学会・日本循環器学会
日本糖尿病学会・日本内科学会
日本透析医学会



医師

北田 真己

救命救急、集中治療

日本救急医学会・専門医
日本集中治療医学会・日本臨床救急医学会
日本精神科救急学会・日本脳卒中学会
日本蘇生学会・日本内科学会
日本循環器学会・日本糖尿病学会
日本内科学会・日本透析医学会
日本救急医学会認定ICLSディレクター
DMAT (NBC) 隊員、フライトドクター



医師

櫻井 聖大

救命救急、集中治療

日本救急医学会・専門医
日本集中治療医学会・日本臨床救急医学会
日本精神科救急学会・日本脳卒中学会
日本蘇生学会・日本内科学会
日本循環器学会・日本糖尿病学会
日本内科学会・日本透析医学会
日本救急医学会認定ICLSディレクター
フライトドクター



医師

木村 文彦

救命救急、航空医療

日本救急医学会・専門医・指導医
日本熱傷学会・専門医
日本航空医療学会・航空医療医師指導者
川崎医科大学非常勤講師
インフェクションコントロールドクター
JATECインストラクター
フライトドクター、医学博士



医師

山田 周

救命救急、集中治療

日本救急医学会・日本集中治療医学会
日本臨床救急医学会・日本精神科救急学会
日本脳卒中学会・日本蘇生学会
日本内科学会・日本循環器学会
日本糖尿病学会・日本内科学会
日本透析医学会
日本救急医学会認定ICLSインストラクター
フライトドクター



医師

狩野 亘平

救命救急、集中治療

日本救急医学会・日本集中治療医学会
日本臨床救急医学会・日本精神科救急学会
日本脳卒中学会・日本蘇生学会
日本内科学会・日本糖尿病学会
日本内科学会



医師

江良 正

救命救急、集中治療

日本救急医学会・日本集中治療医学会
日本臨床救急医学会・日本蘇生学会
日本内科学会・フライトドクター

診療内容・特色

国立病院機構熊本医療センター救命救急センターは、国立熊本病院救急医療センターを前身とし、1968年7月に開設されました。当センターは日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本集中治療学会集中治療専門医研修施設であり、また各消防局の基幹病院として、熊本県の救急医療の中核を担っております。

私たち救命救急・集中治療部は救急外来で急患の初療にあたるだけでなく、全身管理を要する重篤な傷病者への集中治療を行っています。たとえば、心肺機能停止蘇生後、重症呼吸不全、敗血症、急性中毒などの重症度・緊急度の高い疾患を積極的に受け持っています。

(前ページより)

また先進的な臨床研究を主導し、最新の機器・技術を導入、日本最前線の救急・集中治療を提供できるよう絶えず研鑽を行っています。

平成23年6月に専用ヘリポートが完成し、地域救急医療体制支援病院として熊本県防災消防ヘリコプター「ひばり」の基幹病院を務めています。人的にも2010年度より江良正医師を迎え、さらに高度な救命救急センターをめざして邁進して行きたいと思っています。

(詳細は公式ホームページ)

<http://www.hosp.go.jp/~knh/kyukyuiryou/toppage.html>

診療実績

2011年度の救急患者総受入件数は18476名で、そのうち公的救急車台数は7694台となりました。また救命救急センター病棟への入院患者数は2412名となり、疾患の内訳を下表に示します。

救命救急病棟入院者(2010年4月~2011年3月)			
疾患群	人数	疾患群	人数
病院外心停止	120	特殊感染症	45
重症急性冠症候群	157	重症呼吸不全	351
重症大動脈疾患	73	重症急性心不全	119
重症脳血管障害	556	重症出血性ショック	8
重症外傷	163	重症意識障害	170
重症熱傷	14	重篤な肝不全	31
重症急性中毒	195	重篤な腎不全	75
重症消化管出血	212	その他の重症病態	41
重症敗血症	57	計	2412
重症体温異常	25		

研究実績

【厚生労働科学研究事業】

- ・「健康危機・大規模災害に対する初動期医療体制のあり方に関する研究」
- ・「咽頭冷却による選択的脳冷却法の臨床応用を目的とした研究」

【総務省戦略的情報通信研究開発推進制度研究事業】

- ・「多対多対応型モバイルテレメディシン遠隔医療システムの開発と実用化研究」

【国立病院機構ネットワーク多施設共同研究事業】

- ・「血中プロカルシトニン値による外因性救急病態の評価」
- ・「救急外来死亡患者に対するオートプシーイメージング(AI)の重要性についての研究」

【治験】

- ・「KW-3357第Ⅲ相試験：感染症に伴い発症したDIC患者を対象としたKW-3357(遺伝子組換えAT製剤)と血漿由来アンチトロンビン製剤の非盲検比較試験」
- ・「AZD9773第Ⅱ相試験：日本人重症セブンス患者及びセプティックショック患者を対象とした第Ⅱ相多施設共同臨床試験」

ご紹介

【救命救急センター専用ヘリポート】

熊本県による熊本型ヘリ救急搬送事業としての依頼を受け、救命救急センター専用ヘリポートが2011年6月に開港いたしました。

熊本県の地域救急医療体制支援病院として、熊本県防災消防ヘリ「ひばり」の基幹病院を務めます。

病院間重篤患者搬送のマネジメント、救助事案の支援、ドクターヘリの補完を行います。

◀日本航空医療学会認定指導医師▶

木村文彦

◀フライトドクター▶

原田正公 橋本 聡 北田真己 櫻井聖大 山田 周 江良 正

◀フライトナース▶

西野一史



【モバイル・テレメディシンシステム】

救急車内の映像と12誘導心電図がリアルタイムで救命救急センターに伝送されます。救急車内を診察室へ、バーチャルドクターカーを実現化しました。厚生労働省・総務省・熊本県の研究事業として、各地の消防本部と共同研究を行っています。特に、循環器疾患や外傷など、傷病者の状態を病院到着前に把握し、適切な指示を与え、受け入れ準備ができるようになりました。



【高気圧酸素治療装置】

2気圧の圧力環境下で高濃度の酸素を吸入することにより血液中に酸素を溶解させることを目的としています。その結果、動脈血中の酸素分圧が1000~1500mmHgと大きく増やすことができます。適応疾患としては、突発性難聴、一酸化炭素中毒その他のガス中毒、重症熱傷、外傷性の脳脊髄障害などに対して主に使用されています。



◀日本高気圧環境潜水医学会認定 高気圧酸素治療専門医▶
高橋 毅 原田正公

◀日本高気圧環境潜水医学会認定 臨床高気圧酸素治療技師▶
田代博崇

【救急症例検討会】

救急医療の充実に向けて、年7回(5月、6月、8月、9月、11月、2月、3月の第4水曜日)地域医療研修センターの研修ホールで午後6時30分より1時間半の予定で救急症例検討会を開催しています。また特別講演では高名な先生方をお呼びし、救急医療に関するトピックスをご講演いただいています。1995年から始まり、現在115回を迎えました。



◀平成24年度救急症例検討会の予定▶

5月23日泌尿器科・産婦人科 6月27日小児科 8月22日歯科口腔外科・耳鼻咽喉科・眼科 9月26日航空医療(救命救急部・他)
11月28日皮膚科・形成外科 2月27日外因性疾患(外科・整形外科・脳外科) 3月13日内因性疾患(糖尿病・内分泌内科・血液内科)

【ICLS講習会】

ICLS(Immediate Cardiac Life Support)とは、突然の心停止に出会った時にどのように対処すべきであるかという日本救急医学会認定コースです。特に「最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」スキルをメインとして習得することを目標としています。昨年度は当院の看護師120名がプロバイダーとなることができました。



◀日本救急医学会認定ICLSディレクター▶

高橋 毅 原田正公 櫻井聖大 北田真己

◀日本救急医学会ICLSインストラクター▶

山田 周 松本克孝 田中富美子 森田 恵 高尾珠江 白石 誠

【日本DMAT】

災害派遣医療チームDMATとはDisaster(災害)Medical(医療)Assistance(支援)Team(チーム)の頭文字をとって「DMAT」と呼ばれ、「災害急性期(48時間以内)に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医師、看護師、業務調整員から成る医療チーム」のことをいいます。東日本大震災では発災当日に出勤致しました。



◀医師(統括)▶

◀医師(NBC)▶

◀看護師(NBC)▶

◀看護師▶

◀業務調整員▶

◀業務調整員(NBC)▶

高橋 毅

原田正公 北田真己

北川貴章 白石 誠

平野智子 釜畑史香 福成千里 白子知絵

山田晃七郎

秦 幸一

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ61回

4次元CTを使用した血流評価に関する研究

放射線科医長 荒木 裕至



4次元といいますと、漫画ドラえもんのお腹についているのが、いわゆる4次元ポケットといわれています。のび太くんが困ったとき色々便利なグッズが出てきますが、このポケットは数学/物理学的にはポケットやドラえもんの大きさより大きいものが出てくることもあり、空間座標の軸が4つあるという所謂ユークリッド計量空間として考えると、おそらく4次元であると思われます。

ところが、医療の世界では4次元といいますと、アインシュタインが相対性理論の中で普通の3次元の計量空間と時間をセットにした所謂ミンコフスキー空間のことを4次元と言っているので医療とは縁の少ない一般の人には、多少分かりづらい表現かもしれません。4次元イコール『不思議な感じ』として捉えられるかもしれませんが、以下の4次元CTとは従来の3次元CTに時間軸を加えた撮影方法のことを言います。

心、大血管をはじめとした血管系の評価においては、最近では造影剤を使用した3次元CT血管撮影(3D-CTA)により、比較的非侵襲的に評価が行われてきました。近年の技術の進歩にて、3次元CTを中心とした術前・術後の評価において、その解剖学的構造は十分に評価できていましたが、関心領域の血流評価は経験則、ないし血管造影所見と合わせた総合的評価が

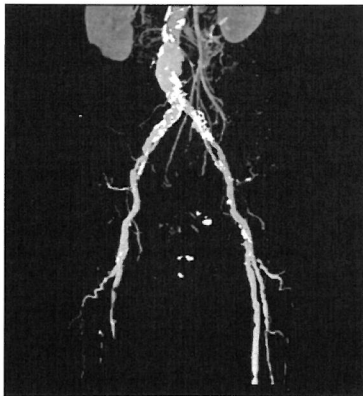
必要でした。しかし、近年のCTの多列化に伴う時間分解能の向上により、4次元CTという新しい検査が可能となり、今までの常識を覆す画期的な画像が得られるようになってきています。

上述しました様に、4次元CTとは従来の3次元CTに時間軸を加えた撮影方法のことを意味し、経静脈的に造影剤を投与し、経時的および連続的に3次元撮影を行い、血管内を造影剤が通過していくのを経時的に撮影すること(4次元CT血管撮影/4D-CTA)で、関心領域の血流評価が可能となります。これにより、大血管疾患をはじめとした術前・術後の血行動態を、CTで評価可能になってきています。

撮影後は、4次元CTの解析を行うコンピューター画像処理装置で動画を作成します。この動画を用いた診断はもとより、医学的専門知識の少ない患者さんや家族に対しても動画によるインフォームドコンセントが可能となり、今後が期待される検査と考えています。

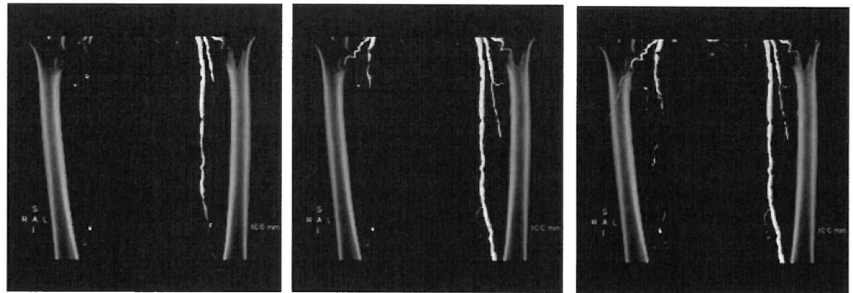
現在のところ最も有用性が高いと思われる下肢の閉塞性動脈硬化症の血行動態について検討を重ねています。研究の成果をもって4次元CTが今後同疾患における術前・術後の評価の一助になればと思っています。

閉塞性動脈硬化症の3D-CTA



右浅大腿動脈は閉塞

右浅大腿動脈より末梢側の血行を4次元血管撮影(4D-CTA)で評価



右大腿部において、中枢側の血流遅延や末梢側における側副血行路の形成不良と血流低下を経時的に評価できる

国際医療協力

平成23年度 「安全な輸血医療(中米地域)」研修コース

当院は、国際医療基幹施設として、JICA(国際協力機構)と連携し、積極的に国際医療協力を推進しています。

平成24年1月16日から2月9日まで当研修コースにエルサルバドルをはじめ4ヶ国12名が当院の研修棟に宿泊しながら研修を行っています。当研修コースでは、日本の輸血事業及び輸血由来感染症対策、血液スクリーニング検査手技を研修し、研修員が各国に適した改善策を考慮し、血液スクリーニングの自国における制度化、能力向上に貢献することを目的としています。

このため、当研修コースでは次の3項目を目標に掲げて実施されます。



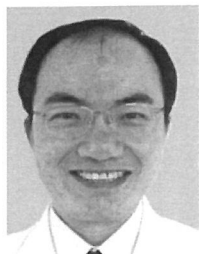
(庶務班長 横尾 大輔)

研修の参加者と

1. 血液の安全性の理論と基準について理解する。
2. 血液スクリーニング検査及び評価の技術を習得する。
3. 各国の血液スクリーニング体制の相互理解を深め、改善に向けた提案をまとめる。

最近のトピックス

当院での遺伝子検査と分子標的薬



臨床検査科医長 鶴田 敏久

臨床検査科では11月より臨床研究部の協力のもと遺伝子検査を始めました。一言に遺伝子検査といっても、いろいろな方法があります。今回、当院で導入したのは遺伝子増幅（PCR）法にてウイルス量や各疾患に関係する遺伝子発現を定性、定量（リアルタイム）にて測定する方法です。

HBV、HCVに関しては、ほぼ全自動でmRNA量を測定できるコバスTaqMan48™システムを導入しております。このシステムは核酸（RNA）抽出部と増幅測定部に分かれており、同時に45検体または21検体2種類を測ることができます。現在、コスト面などから週二回の測定を行っています。

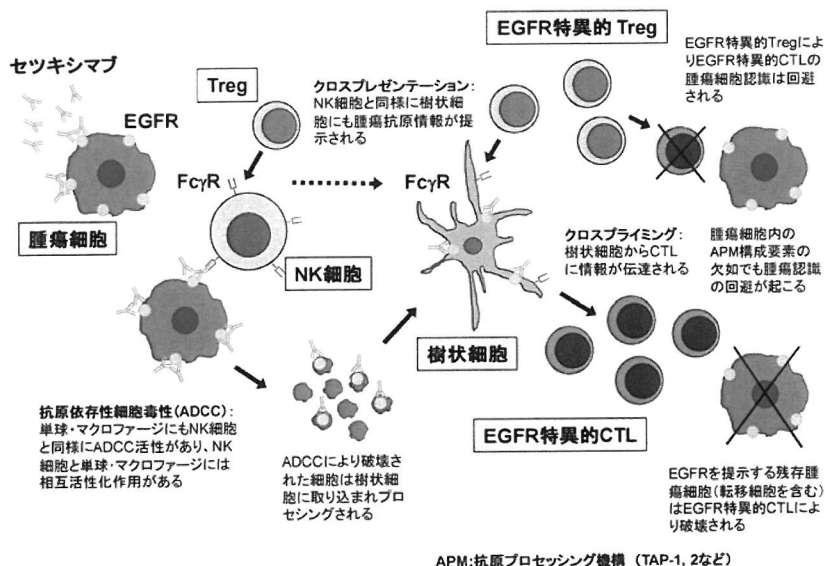
遺伝子検査は悪性腫瘍の診断、治療の面でも多く利用されています。腫瘍遺伝子などの解析に関しては汎用性が高いStepOnePlus™ PCRシステムを導入しております。このシステムにより、血液腫瘍の微量残存腫瘍量の測定や悪性腫瘍の治療に用いられている分子標

的療法薬のターゲット遺伝子発現量の測定ができます。

現在、分子標的療法薬は大きく分け、抗体と酵素阻害薬に分かれますが、抗体を用いた分子標的療法は細胞免疫療法とも強く結びついています。悪性腫瘍に対する免疫療法は第四の治療と言われて久しいですが、本年度3名の免疫学者がノーベル生理学・医学賞を受賞し、俄に注目されています。

図に大腸癌や肺癌の治療に利用されているEGFRという分子の例を示します。大腸癌に使用されるアービタックス™という抗EGFR抗体薬の腫瘍細胞への結合情報は、腫瘍を直接攻撃するNK細胞だけでなく、司令塔である樹状細胞にも伝達・提示（クロスプレゼンテーション）されます。さらに、その情報は樹状細胞から細胞障害性T細胞（CTL）に伝達（クロスプライミング）され、全身の転移腫瘍細胞を攻撃することがわかってきました。また、NK細胞と強力な殺腫瘍能力を持つ単球・マクロファージとの相互活性化作用や、NK細胞や樹状細胞から腫瘍細胞情報を盗み、CTLの殺腫瘍作用の邪魔をする制御性T細胞（Treg）の機能も明らかと成りつつあり、この治療の今後の発展が期待されます。

遺伝子検査部門は江角副技師長、一瀬主任、竹下久子技師が担当しておりますが、今後、血液・腫瘍細胞でのEGFR、HER-2、VEGFRなど十数種類の遺伝子発現検査を逐次導入していく予定です。今回導入したシステムでは遺伝子多型（SNP）解析、DNAメチレーション解析などへの応用も可能ですので、興味がある方はご相談ください。



上写真：TaqMan48システムと遺伝子検査部門スタッフ

左 図：セツキシマブ（アービタックス™）を媒介としたNK細胞依存性の腫瘍細胞破壊とその回避のモデル

エール大学ヴァンス教授の研修を終えて

この度、米国エール大学からウィリアム・ヴァンス教授を1月16日、17日にお招きし、英語でのコミュニケーションやメディカル・プレゼンテーションに関する研修が行われました。ヴァンス先生は英語を専門とする言語学者であり、世界中の企業、政治機関、マスメディアなどに英語を指導されています。

今回は私達研修医を対象にワークショップを行って頂きました。ヴァンス先生はより良いコミュニケーションを行う手法として①Melody ②Stretch ③Body languageの3つを指導して下さいました。そうおっしゃるヴァンス先生の英語は私達でもとても聞き取りやすく、輪ゴムなど用いたユニークなワークショップで皆が楽しく理解することが出来ました。また、メディカル・プレゼンテーションについてのワークショップでは私達2年目研修医が各自、英語での症例発表を行い、ヴァンス先生がひとりひとりに対して3つの改善点を指導して下さいましたという形でした。指摘された点を改善し翌日再度プレゼンテーションを行ったところ、全員が前日よりプレゼンテーション能力が向上しており、私自身驚きを感じました。冒頭の挨拶、適切な

英語表現やイントネーション、スライドの効果的な図説の仕方、また視線ひとつで、ヴァンス先生が強調していた「プレゼンテーションもコミュニケーションの一つである」という言葉を体感することができました。ヴァンス先生は来年度も当院にお越し頂き、レジデントを中心に指導を行って下さる予定です。少しでも多くの方がこのセミナーを経験して、決して流暢な英語でなくとも少しの心遣いで自分の考えを明確に英語で伝えることができると実感して頂きたいと思います。

(2年次研修医 福島 亜矢子)



ヴァンス教授と記念撮影

研修医レポート

臨床研修医

1年次 **まつもと** **あきひこ**
松本 **哲彦**



こんにちは。歯科口腔外科研修医の松本哲彦です。鹿児島県鶴丸高校、九州大学歯学部を卒業し熊本へ参りました。初めて訪れる熊本の地。馬肉に天草の海産物にと九州を代表する食文化が象徴するように、火の国熊本の活気ある環境によろやく慣れてきました。

4月に研修が始まった当初は、右も左もわからずとても舞いな毎日。患者さんへの対応一つ一つが緊張の連続でした。多くの患者を回さなければならず、限

られた時間内で確実に治療を進めなければいけない緊張感のなかで研修が始まったことは自分にとって本当によかったと思います。現在歯科口腔外科は4人のドクターと2人の研修医に2人の歯科衛生士と決して大所帯ではありませんが、より患者さんと触れる機会が増え、多くの症例を経験することができます。具体的には、智歯抜歯から粘膜疾患、嚢胞、外傷による骨折、悪性腫瘍といった幅広い症例をこれまで経験することができました。また、外来だけでなく週2日の手術では第3助手として手術場に立たせていただけることは本当に恵まれていると思います。私は、大学卒業後の進路について、母校から一度外に出ている色々な現場を経験することが大事だと思い熊本医療センターに決めましたが、多くの同期が母校に残る中、不安もありましたが、一歩外に出る勇気を出したことを今とても満足しています。そう思えるのも当院の環境とご指導賜る先生方のおかげだと思います。

1年間の研修は残りわずかになり、自分で治療をする機会を与えていただけに喜びを感じつつも、毎日失敗の連続で反省が山積みです。経験に勝る財産はないと思って残りの研修期間日々精進したいと思います。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願致します。

臨床研修医

1年次 **うえだ** **だいすけ**
上田 **大介**



歯科研修医の上田大介と申します。学生時代は毎日道着を着て空手道の練習に励んでいましたが、今は白衣を身にまとい、日々の診療に取り組んでおります。当科での研修も残すところあとわずかとなりました。我々歯科研修医は、歯科の4人の先生方にローテーションで指導していただきながら外来、入院患者様の診断や処置を学んでおります。

空手は実践勝負と申しますが、我々も早い段階から縫合や切開、抜歯など一般歯科での研修ではほとんど経験することのない技を、数多く経験することができ、実践勝負で日々研鑽を積んでおります。しかし、実践

ばかりで基礎がおろそかになってはいけません。診療後は先生方に、歯科治療の基礎を学ぶ反省会を開いていただきながら、叱咤激励されております。

歯科では歯のことは診ないと思われがちです。しかし当科では近年問題となっているビスホスホネート製剤関連顎骨壊死(BRONJ)予防のための口腔内スクリーニング検査、摂食嚥下リハビリテーションチームでの活動、心臓血管外科手術前の口腔内スクリーニング検査など、他科と連携した活動も多く行っており、全身から口腔をみる広い視野を養うことができると感じています。

中島医長をはじめとする先生方に優しく、ときに厳しく指導していただき、本当に充実した研修生活を送っています。

歯科の研修期間は1年であるため、来年からは自らに課される責任も大きくなってまいります。医療の世界においてはまだ白帯をまいたばかりの若輩者であり、ご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、これからもご指導のほどよろしくお願申し上げます。

押忍

研修のご案内

第19回 症状・疾患別シリーズ (会員制)

[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]

日時▶平成24年2月4日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長:熊本市医師会

影下 登志郎 先生

演題:「創傷治療のアップデート」

- | | | |
|------------|----------------------|-------|
| 1. 急性創傷 | 国立病院機構熊本医療センター形成外科医長 | 大島 秀男 |
| 2. 慢性創傷の治療 | 国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 | 牧野 公治 |
| 3. ケロイドの治療 | 国立病院機構熊本医療センター形成外科 | 万江由希子 |

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費10,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025 (直通)

第70回 特別講演 (無料)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成24年2月8日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長:国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫

「組織崩壊の要因とその対策—モチベーション3の導入を含め—」

国立病院機構九州医療センター院長

村中 光 先生

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター TEL 096-353-6501 (代表) 096-353-3515 (直通)

第126回 三木会 (無料)

(糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成24年2月16日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

- 「頻回インスリン注射を行っても低血糖のため血糖コントロールが困難であった2型糖尿病の1例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科
橋本章子、山田崇裕、嶋田さやか、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗
- 「89歳で尿管結石を繰り返す局在不明の原発性副甲状腺機能亢進症の1例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科
山田崇裕、嶋田さやか、橋本章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5705

第157回 月曜会 (無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成24年2月20日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

- 胸部レントゲン読影
- 持ち込み症例の検討
- 症例検討「多腺性自己免疫症候群の1例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 野尻 奈央
- ミニレクチャー「小腸疾患について」
国立病院機構熊本医療センター消化器内科 田島 知明

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

第116回 救急症例検討会 (無料)

日時▶平成24年2月22日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

- | | | |
|------------|-----------------------|-------|
| 症例検討「意識障害」 | 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 | 大塚 忠弘 |
| | 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 | 田北 智裕 |
| | 国立病院機構熊本医療センター精神科医長 | 渡邊健次郎 |

救急救命士、救急隊員を含めた全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

2012年 研修日程表 2月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

2月	研修センターホール	研修室	その他
1日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
2日(木)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
3日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
4日(土)	15:00~17:30 第19回 症状・疾患別シリーズ 【日本医師会生涯教育講座2.5単位認定】 座長 熊本市医師会 影下登志郎 「創傷治療のアップデート」 1. 急性創傷 国立病院機構熊本医療センター形成外科医長 大島 秀男 2. 慢性創傷の治療 国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 牧野 公治 3. ケロイドの治療 国立病院機構熊本医療センター形成外科 万江由希子		
6日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
7日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
8日(水)	19:00~20:30 第70回 特別講演 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】 座長 国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 「組織崩壊の要因とその対策 - モデルセッション3の導入を含めて -」 国立病院機構九州医療センター院長 村中 光		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
9日(木)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
10日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
13日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
14日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~17:00 外科術前症例検討会 C1 17:00~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
15日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
16日(木)	20:00~21:30 第59回 医歯連携セミナー 座長 国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科医長 中島 健 「泌尿器疾患について -BP製剤も含めて-」 国立病院機構熊本医療センター泌尿器科医長 菊川 浩明	19:00~20:45 第126回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】 【日本糖尿病看護指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定】	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
17日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「脂肪肝とアルコール性肝障害」	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
18日(土)	14:00~16:00 第235回 滅菌消毒法講座 「滅菌保証のガイドライン2010を読み取る」		
19日(日)	8:00~17:00 日本臨床細胞学会熊本県支部学会<総会・学会>		
20日(月)	19:00~20:30 第157回 月曜会(内科症例検討会) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
21日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
22日(水)	18:30~20:00 第116回 救急症例検討会 「意識障害」		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
23日(木)		19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
24日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
25日(土)	9:00~12:00 楽しく学ぶ基礎看護研修 「がん看護の特徴とアセスメントの視点を学ぼう -患者・家族のパートナーになるために-		
27日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
28日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
29日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読書室 手術室
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)